

第 37 回日本呼吸療法医学会 第 3 回理事会 議事録

日 時：2015 年 4 月 28 日（火）13：00～16：15

場 所：(株)メディカ出版 第一会議室

出席者：川前金幸（理事長）、竹田晋浩（副理事長）、大塚将秀、尾崎孝平、落合亮一、小谷 透、
藤野裕士、橋本 悟、西田 修、布宮 伸、多治見公高（各理事）、氏家良人、妙中信之（各監事）

[敬称略]

陪 席：山崎由華、小笠原聡（事務局）、太田孝誠（セミナー委員会事務局）

【報告事項】

1. 前回理事会議事録（案）の確認・承認

- 前回議事録案が承認された。

2. 事務局からの報告（大塚理事）

- 代議員の所属変更

鮎川勝彦先生：飯塚病院特任副院長

市場晋吾先生：日本医科大学付属病院外科系集中治療科

氏家良人先生：川崎医科大学救急総合診療医学

中沢弘一先生：東京医科歯科大学大学院生体集中管理学分野

藤本潤一先生：横浜労災病院中央集中治療部

- 訃報

井上哲夫先生（名誉会員、日本医科大学千葉北総病院麻酔科）

2015 年 4 月 19 日逝去

3. 第 37 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況

- 橋本会長より報告があった。

274 題の演題登録があり、全演題採用

クールビズスタイルとする。

- APELSO に関し落合会長より報告があった。

企画はほぼ決定した。

1 日目は ECLS に関する講演、2～3 日目は通常スタイルで構成した。

4. 第 38 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（西田副会長）

- 2016 年 7 月 15～17 日に開催予定（15 日は会議のみ）

- テーマ「明日の呼吸を科学する」

- 呼吸療法スタッフセミナーは 18 日に予定しているが、参加者の帰路のことを考慮して 17 日に変更の可能性あり。

5. 各委員会報告

①将来計画委員会（川前委員長）

- e 医学会加入について

メリットが明瞭でない。

管理していた三菱商事が撤退方向だが、システムは残る予定。

動向の詳細が 6 月には判明するのでそれ以降に再検討とする。

②人工呼吸編集委員会（藤野担当理事）

- 32 巻 1 号は ECMO 特集で現在印刷中
- 32 巻 2 号の特集は「呼吸関連モニタリング」
- 33 巻 1 号は終末期の呼吸管理と医工連携で構成予定
- 32 巻 1 号より無料分の別刷りの作成を中止
- 投稿規定に種目の区分を明記

③代議員審査委員会（西田担当理事）

- 査読業務を代議員の評価に用いることに関して
新代議員については、査読協力誓約書に署名をしていただく。
新代議員の審査要項には採用しない。
代議員の更新に関しては、学会活動の項目に加える。
- 代議員の職務について
細則に記載する方向で原案作成を依頼し、理事会で再検討。

④在宅人工呼吸療法検討委員会（尾崎担当理事）

- 同委員会は解散とする。
- 小児在宅人工呼吸検討委員会を新設する。
倫理的・社会的に問題が山積する小児の在宅人工呼吸に関して指標を与える役割を期待する。
委員長：田村正徳先生、委員：渡部晋一先生、石川悠加先生、多田羅勝義先生、松井晃先生、星順先生
- 委員のうち 5 人（石原英樹先生、瓜生伸一先生、鈴木康之先生、坪井知正先生、中山優季先生）は、人工呼吸管理安全対策委員会に編入し、人工呼吸管理安全対策委員会の支援のもとに在宅人工呼吸安全対策マニュアルの作成に引き続き尽力いただく。必要に応じて委員会内に ad hoc でワーキンググループを立ち上げる。

⑤呼吸パターンアセスメントプロトコル作成 WG（仮）立ち上げ（尾崎担当理事）

- 2015 年 5 月 31 日に第 1 回会合を神戸で開催予定。

⑥チーム医療推進委員会（布宮担当理事）

- 特別な報告なし。

⑦専門医委員会（藤野担当理事）

- 試験問題の出題範囲および問題を人工呼吸 32 巻 1 号に掲載予定。
- 2014 年 11 月の試験では、10 名が受験して 8 名が合格。
- 現在は記述式だが、受験者数が増加したら選択式問題も考慮する予定。
- 今後、更新の方法・更新基準の検討が必要。

⑧ ECMO プロジェクト委員会（竹田委員長）

- 2015 年 2 月 28 日に藤田保健衛生大学のシミュレーションラボでハンズオンセミナーを実施。

⑨利益相反委員会（西田担当理事）

- 臨床工学技士枠として中島正一先生が新委員として就任した。
- COI に関するアンケート調査結果を人工呼吸 32-1 に委員会報告として掲載予定。
- COI の開示基準に関して学会間で差異があり、今後統一していく必要がある。
- 少なくとも複数の学会で共同事業を行う場合には、各学会の基準で開示するのか統一基準を作るのか事前に決める必要がある。
- 多国間の共同事業の場合は、国によって事情が大きく異なるので統一基準を設けることはしていない。

⑩学術委員会（橋本委員長）

- 2015 年の学術集会に向けては 30 名の委員に委嘱 60%は前回委員の再任。

- ・十分に機能しているか疑問で、継続の是非を再考する余地がある。
- ・人数が多すぎると議論が進まないで、10 人程度以下に絞る必要がある。
- ・委員 - ワーキンググループの 2 段階組織とすることも考慮する。
- ・有益な議論のために一堂に会する必要があるので、京都の学術集会時に次期の第 1 回学術委員会を開催することとする。

⑪社会保険委員会（落合担当理事）

- ・委員長：蝶名林直彦先生、委員：山田芳嗣先生、横田浩史先生で発足した。
- ・委員会内規修正案が提示された。
- ・委員の決め方に関して他の委員会に準じた追加修正をすることで内規修正案は承認された。
- ・外保連への加入は時期尚早として見送られた。

⑫高頻度振動換気法使用指針作成のためのワーキンググループ（竹田担当理事）

- ・指針修正案が提示された。
- ・主な修正点は、2つの RCT の概要の記載、指針作成の経緯の説明、R100 と 3100B における設定の比較を明記したことである。
- ・第 1 段落の見出しを「背景と目的」と修正し、内容を俯瞰するための目次追加の 2 点を修正の後、次回再検討とする。

⑬ ARDS クリニカルプラクティスガイドライン作成委員会（橋本委員長）

- ・2015 年 9 月に、1 泊 2 日でパネル会議を開催し、翌 1 月に完成予定。
- ・発表方法は、冊子体では行わず、PDF による電子的なものを検討中。
- ・営利目的での使用料は、日本集中治療医学会の規定を適用し、各団体で 3 等分の予定。
- ・文献を集める経費や会議の経費などガイドライン策定には多額の費用が必要で、今後の価格設定にも影響するため、今後の類似のガイドラインの使用料に関しては継続審議とする。

⑭医工連携ワーキンググループ（西田担当理事）

- ・委員長からの報告なし。
- ・特許の申請方法のノウハウなどを的確に提案できる専門家が必要。
- ・ビジョンを定める必要があるが、アイデア募集の機能と科研費など国の研究費と企業を結ぶ機能が考えられる。
- ・経産省の職員を委員に入れることも考慮していく。
- ・次回以降の継続審議とする。

6. その他

*持ち回り理事会決定事項の承認（川前理事長）

- ・前回理事会議事録の修正に関し承認された。

*臓器移植システム委員会提言について（川前理事長）

- ・委員会提言を本学会も連名とすることが承認された。
- ・次回の委員会には布宮理事に参加していただき、継続参加の必要性を検討する。

*次回理事会について（川前理事長）

2015 年 7 月 16 日（木）13 時～15 時 30 分 京都 鮎鶴

【審議事項】

1. 各委員会からの審議事項

① ECMO プロジェクト委員会（竹田晋浩委員長）

- ・小児救急医学会が厚生労働省に提出している「未承認薬（アミノカプロン酸：線溶抑制薬、ECMO 中の

止血目的で使用予定)の開発要望」に関し、共同で要望書を提出することを承認した。ちなみに、同薬は米英独仏などでは承認済、加豪では未承認。

- 日本集中治療医学会が申請している「ECMOの保険点数の増点」に関し、共同で要望書を提出することを承認した。
- 体外循環回路であるマッケ社のカルディオヘルプについて、保険償還価格の早期設定について主たる学会として要望書を出すことを承認した。

②専門医委員会（藤野理事）

- 委員人事案を承認した。

任期満了：久木田一朗委員、横田浩史委員

新 任：内山昭則先生、小松孝美先生、中野 実先生

2. ECMO 事故報告の件（川前理事長・竹田担当理事）

- 開心術後の心機能が悪く人工心肺の離脱ができなかった患者に対し、術中使用していた脱送血管を用いて術後も循環補助を行っていたところ、脱血管の先端部品とチューブの接着部が外れ、一時循環補助が不能となった。
- 調査結果では、時間経過によって接着が弱くなって外れたことが原因だった。
- 体外循環のための回路類は、他製品も含めすべて6時間以内の使用に限られている。
- 専門家（Dr PEEK）からは、「一体成型のものを用いるべきで、接着型は用いるべきではない」との意見がある。
- 事件はしかるべき機関には連絡済だが、一般公表はされていないので、一般論として一体型脱血管の使用を推奨するコメントを当学会として発信することとする。
- ホームページ、評議員会で注意喚起し、日本麻酔科学会、日本臨床工学技士会、日本人工臓器学会、日本集中治療医学会、日本心臓外科学会に通知することとする。

3. ガイドラインの使用許諾に関する営業利用の使用料について（川前理事長）

- 営利目的でガイドラインを使用する場合の使用料が定められていなかったため、早急に決める必要がある。
- 営業活動に使用するときのみ、日本循環器学会の額（1万部以下の配布：32.4万円、ウェブサイト表示：54万円）を参考に徴収する方針とし、細部は財務委員会で検討する。

4. 非選挙理事に関する提案（橋本理事）

- 理事・監事の13名は全員が麻酔科系医師。
- 役職理事を除き、役員は選挙で決めているため、学会員の構成比率に合致していない。
- 少数意見も学会運営に反映させるため、また学会の今後の活動の幅を広げるためにも、非選挙理事枠が必要。
- 会員比率に合わせて多職種の代議員数を増やすことを考慮する。
- 京都の代議員会までに、定款を「理事11名以内」から「理事15名以内」に変更する案と非選挙理事の選考に関する細則変更案の作成を橋本理事に一任する。

5. RST プロジェクト登録制度について（落合担当理事）

- 日本ケアリハ学会との共同作業で、当学会は長谷川先生、日本ケアリハ学会は蝶名林先生が代表。
- RSTの診療報酬額増点およびICU内の活動に対しても算定できるように要件拡大を厚労省に要望していく。
- そのために1年分のデータ集積が必要で、その経費25万円を2学会で折半予定。
- 当学会分の12.5万円は学会からの寄付として支出することが承認された。
- 統計処理は聖路加の高橋先生に依頼予定で、委嘱状を発行することが承認された。

6. ハイフローシステム使用中の患者周囲の酸素濃度上昇についての注意喚起（尾崎理事）

- ハイフローシステムの使用時は周囲の酸素濃度が上昇するので事故が起きる前に注意喚起することが検討された。

- 他の呼吸療法器具のデータも公平にそろえ、メッセージとなる 2、3 行の原案を次回までに作成して再検討とすることとなった。

以上にて閉会となった。